

棚尾地区まちづくり事業

平成 25 年 2 月 20 日（水）19 時～

棚尾公民館 3 階

第 20 回 棚尾の歴史を語る会 次第

進行（小笠原幸雄）

1 前回までのテーマに関する参考意見など

お医者さん、小谷がつぼ、平岩種治郎¹、昔の棚尾小学校校舎など

2 テーマ 38 「棚尾神社と忠魂碑」

(1) 説明（磯貝国雄）

(2) 出席者による補足説明、感想など

3 テーマ 39 「味淋造り」

(1) 説明（磯貝国雄）

(2) 出席者による補足説明、感想など

4 連絡事項・情報交換など

5 次回日程

第 21 回 3 月 21 日（木）午後 7 時から

「源氏と長田氏」

第 22 回 4 月 24 日（水）午後 7 時から

「杉浦宗京氏の土風炉（どぶろ）」

¹ 「国産第一号の四幅式毛織機」について 補足説明

- ・ 大正 5 年のカタログによると「E S 8 7 型」のリードスペースは 80 インチとある。1 インチ=2.54 cm で計算すると、80 インチ=203cm である。
- ・ この毛織物を使うことによって、実質幅 180cm の毛織物を織り上げることができた。
- ・ 当時は「二幅」が一般的と言われていたので、平岩種治郎が国産で初めて製作した「四幅式」がいかに高性能な毛織物であったかが良く分かる。

棚尾の歴史を語る会 第36回

「平岩種治郎」 補足説明

「国産第一号の四幅式毛織機」について

- 大正5年のカタログによると「ES87型」のリードスペースは80インチとある。 1インチ=2.54cmで計算すると80インチ=203cmである。
- この毛織機を使うことによって、実質、幅180cmの毛織物を織り上げることができた。
- 当時は「二幅」が一般的と言われていたので、平岩種治郎が国産で始めて製作した「四幅式」がいかに高性能な毛織機であったかがよく分かる。

「棚尾神社と忠魂碑」

1 要旨

八柱神社の南に、同神社の境外社「棚尾神社」がある。地区の戦死者を祀る神社で、昭和6年(1931)に創建された。毎年5月には、戦争の犠牲となった方々のご冥福をお祈りすると共に、戦争のない平和な世が続くことを願い、大祭が斎行される。

隣接して忠魂碑がある。元々は明治34年、棚尾小学校の開校に併せ校門の南に建立されたが、プール建設の為、昭和43年(1968)に現在地へ移転した。

2 棚尾神社の概要

- (1) 創建 昭和6年10月
- (2) 鎮在地 碧南市弥生町5丁目11番地
- (3) 祭神 棚尾出身軍人の戦死者、病死者及び殉難者を奉斎
- (4) 沿革 昭和24年7月神社庁より八柱神社境外社として承認された

3 棚尾神社の創立

- (1) 戦後、棚尾神社を境外社として神社庁へ届けた申請書によると次の通りである。

境外社創立申請書

ア 創立の事由

今般当神社の氏子相議し、当地旧棚尾町出身の軍人戦死者、病死者並びに殉難者の英霊を奉斎している社殿を、社会公共のために殉難、殉職された功労者を併せ祀り当神社の境外社として永く其の功績と労苦とに対し、感謝を捧げんために創立せんとするものである。

イ 由緒

当該祠は昭和6年10月18日創立、忠魂社と称し当地出身の軍人戦病者並びに殉難者の英霊を奉斎しあり、例月祭は創立日を記念日とし毎月18日行ひ、毎年4月18日を大祭日と定め崇敬し来るに、終戦後氏子崇敬者等これを憂い社会公共の為、社の境外社として奉斎せんとするものである。

ウ 鎮座地・神社名・祭神

- ㊦ 鎮座地 碧南市字森下42-5
- ㊧ 神社名 棚尾神社
- ㊨ 祭神 杉浦文七命外二百二柱

エ 社殿

神明造 5坪

オ 建造物

手水舎

- 鳥居 高サ 12尺 横明 9尺
- 石玉垣 高サ 3尺 長サ 20間
- 土塀 高サ 7尺 長サ 42尺
- 石狛犬 1対 石灯籠 2対

カ 境内

179坪

右 創立承認下さる様申請いたします。

昭和24年5月1日

右神社 宮司 大山貞次

総代 小笠原金次郎

〃 小笠原仁一郎

〃 石川 祥一

〃 小笠原憲太郎

(2) 創建時建設費

棚尾忠魂社建設経費収支決算書

収入ノ部		支出ノ部	
	円 銭		円 銭
町尚武会補助金	3,000.00	社殿建設費	1,514.24
預金利子	79.42	神饌費	8.04
東部寄付金	635.55	御分祀費	50.00
西部寄付金	609.90	社殿内陣用備品費	180.05
南部寄付金	625.00	盛土用土砂及び玉砂利費	492.08
北部寄付金	70.00	敷地ノ整備費	640.59

部外寄付金	517.00	石積石垣石柵費	1,642.64
雑収入	8.74	式典費	78.77
賽銭	10.065	塀費	219.50
氏子総代補助金	400.00	立替料	150.05
<u>祭典費ヨリ繰入</u>	<u>3.785</u>	祭典費へ繰入	30.00
収入合計	5,959.46	水屋費	2.70
		備品費	41.88
		事務費	16.75
		雑費	154.99
		運搬費	27.80
		通信費	7.31
		社殿仕組小屋掛費	44.90
		用地内民家移転費	382.90
		武器陳列費	132.08
		会合費及び役員慰労費	89.35
		<u>旅費</u>	<u>52.84</u>
		支出合計	5,959.46

右之通りニ候也 棚尾忠魂社建設委員長 長田鎮雄

4 祀られている方

杉浦文七外 166 柱

- (1) 戦後神社庁への申請諸に杉浦文七外 202 柱と記載されている。

内訳 西南役 杉浦文七

日清戦役 2名

日露戦役 5名 (内中山地区1名)

太平洋戦役 196名

尚、日清戦争から太平洋戦争までの戦没者については、碧南市遺族連合会が平成元年3月に「碧南市戦没者顕彰史」を発行され、詳細が掲載されている。

- (2) 中山神社への分祀

昭和59年11月に中山神明社が改築され、併せて拝殿南に末社「中山神社」を

創建された。この時に中山に属する方の御霊を分祀する。

(神明社建設記録誌から抜粋)

末社 中山神社

祭神 英霊

創建 中山神社は棚尾神社に合祀されていた御霊を、神明社旧本殿を拝領して建立された本殿に遷座奉る。

(3) 平成3年に境内周り石柵の整備をされた時の奉納石碑によると、棚尾遺族会会長永坂寅吉外 166名と記されている。

(4) 関連事項

八柱神社に日清戦役の木製記念額が保管されており次のとおりである。

征清記念 明治28年 従軍者

杉浦 竹次郎	永坂 重太郎	斎藤 七五郎	斎藤 松太郎
杉浦 辰五郎	小笠原 由太郎	小笠原 仙治郎	永坂 増太郎
斎藤 岩吉	石川 國太郎	榊原 與木太郎	榊原 喜代市
金原 鶴松	石川 梅吉	小笠原 市松	小笠原 仁三郎
斎藤 安太郎	斎藤 曾二郎		



5 平常時の外観



6 大祭時の外観



7 境内の奉納物

(1) 手水石

文政5年秋8月 「清浄水」

惣氏子

※八柱神社で最も年代が古い工作物のため、棚尾神社創建時に本社から移設されたと推測される。

(2) 幟たて

明治40年

(3) 狛犬

昭和6年8月

名古屋市 清水 義一 清水 米吉 清水 末松

(4) 石燈籠

昭和6年8月

名古屋市西区塩町 瓦商 藤原 留吉

石工 岡崎市中町別院前 榊原 吉松

(5) 石燈籠

昭和6年10月

黒田 伊平 杉浦 博 清水 留吉 辻 吉一

鈴木 清一 内藤 榮 長崎 清教 古久根武雄

鳥居 十松 永坂 進 小澤 四市 斎藤 叶

鈴木 秀雄 長崎 桐松 金原 留一 磯貝 盛次

(6) 石柱「忠魂社」

昭和6年

勲7等功7級 榊原 與木太郎

〃 石川 榮治郎

勲8等功7級 永坂 和市

(7) 石柱「棚尾神社」

元侍従長 正 位勲一等 藤田尚徳謹書

昭和15年 皇紀二千六百年

恩鷄会 横順に読む

永坂 和市 石川 榮治郎 榊原 與木太郎 小澤 秀松

石川 安蔵 石川 十治郎 中野 榮蔵 深津 四郎
小笠原 源之助

(8) 石鳥居

昭和29年

丑寅朋友会 大正2～3年生まれ イロハ順 横順に読む
井上 仁市 生田 弥一郎 石川 徳市 新美 善八郎
鳥居 正徳 小笠原 福松 小笠原 大正 長田 武兵
永井 茂 永坂 浩 長崎 照吉 小高 半太郎
斎藤 平八 榊原 由松 三島 忠 杉浦 高三
杉浦 秀雄 杉浦 茂雄 長田 峯義
井上 治郎 井上 清市 石川 徳市 石川 敏雄
早川 正市 小笠原 坂一 長田 金一 長田 博
長田 彦一 永坂 令吉郎 永坂 八市 名倉 良平
小澤 正夫 斎藤 良二 金原 新市 平岩 五十一
杉浦 實 杉浦 英夫 小笠原 正一

岡崎市門前町 清水組石材会社

(9) 石柵

平成3年

八柱神社宮司 大山 貞次 禰宜 大山 博
平成3年度氏子総代 平成3年度評議員一同
棚尾遺族会会長 永坂寅吉外 166名 中山神社
平成3年度神明社総代 中山地区区長会
神明社禰宜 村松 修 軍恩会
平岩 勵治 榊原 長七 永坂 由一 榊原 武夫
永井 千秋 石川 共平 石川 秀雄 小澤 重利
井上 柳男 榊原 金一 石川 鉦平 丸清興行(株)
永坂 勇 加藤 光平 杉浦 實一 外山 秋太郎
榊原 利男 小笠原妙次郎 中根 馥 小笠原 規吉
永坂 里嗣 成瀬 武夫 石和組

8 忠魂碑

(1) 創建及び移設

明治27～28年の日清戦争に従軍した軍人らによって柵尾小学校正門の南（字善明坂2番地）に建てられ、昭和43年柵尾小学校プール建設に伴い柵尾神社の隣に移転した。

(2) 碑文

(表面) **忠魂碑**

陸軍大将 正三位勲一等子爵 桂 太郎

(裏面)

明治三十四年五月建立 発起者 柵尾尚武会
柵尾軍人会

写真 忠魂碑の正面全景



(3) 再建由来碑

(表面) 忠魂碑再建委員会

委員長 平岩 慶一

氏子総代 杉浦 清二郎

同	井上	好兵衛
同	成瀬	庄太郎
同	伊藤	久男
地区幹事長	平岩	安治
同副幹事長	石川	梅吉
同会計	長田	鋪夫
同書記	鈴木	邦男
宮司	大山	貞次

昭和43年10月14日

本忠魂碑は明治27～28年の日清戦役に従軍し凱旋された軍人諸君が、戦歿勇士の霊を慰めるため、明治34年5月村当局と相謀り、棚尾小学校正門西隣に建設されたものである。

昭和6年10月棚尾招魂社が創建され、神霊は神社に合祀された。

昭和43年3月棚尾小学校にプール建設のため、やむなく境内に再建するに至った。永久に神社と共に崇敬いたしたく茲に由来を記して後世に伝える。

昭和43年9月 忠魂碑再建委員会

(裏面)

撰文	名倉	諭
謹書	中根	仙吉
施工	長田	建設

(4) 忠魂碑前の燈籠一対奉納

昭和44年 寄付者 辰巳会

9 大祭

(1) 現在の棚尾神社大祭

会場 棚尾神社、但し、雨天の場合は八柱神社拝殿

日時 平成24年5月26日(土)

準備作業、神殿板囲いの取り外し、幟建てなど

〃 5月27日(日)

式典開始 : 午前 10 時

式典参加者 : 町内会長 (評議員)、神社係、棚尾遺族会、来賓、
神職、氏子総代、傭人

午後 : 片付け

(2) 明治 36 年の招魂祭の様子
戦病死者招魂祭補助申請

棚尾村尚武会

金拾五円也

西南役戦死者 杉浦文七

明治二十七年十月十日病死 鈴木竹次郎

明治二十八年七月五日病死 斎藤岩吉

右之者ニ対シ村尚武会ニ於テ三十六年三月九日招魂祭別紙方法書書之通り
举行致候ニ付補助相成度此段申請候也

明治三十六年三月一日

棚尾村尚武会長 榊原七兵衛 代理 鳥居嘉四郎

(招魂祭執行方法之要目)

- 一 式場ハ碑前ニ設ク
- 二 神式及仏式ヲ以テ祭ル
- 三 式場へ参列スヘキモノ左之通り

碧海郡尚武会長

碧海郡軍人会長

大浜警察分署長

戦病死者遺族

村内在住ノ在郷軍人

本村尚武会長

棚尾尋常高等小学校長

教員及生徒

赤十字社員一同

- 四 本村小学校生徒ハ職員引率シテ参拜ヲ為シ並ニ接待之事左之通り
戦死者之遺族並ニ在郷軍人ニ供膳ヲ為ス
小学校生徒及職員ニ対シテハ菓子ヲ呈ス

五 招魂祭ニテ若残余アラハ其金処分方法左之通り
遺族ニ給與ス

10 関連記事

「トボトボ歩く碧南市」から インターネットから抜粋
< 棚尾神社の狛犬 >

棚尾神社の社前に不思議な恰好をした狛犬を見つけた。台座には「昭和6年8月」の文字が刻まれている。大きく体が後ろに反り返っている造形、まるで襲い掛かってくる直前のような雰囲気職人の技を見る。狛犬の厚い胸版にあるネックレス形状の飾り、どこかエキゾチックな紋様。普段目にする狛犬とは明らかに違う体の比率。何より前腕が長いのが特徴。これは東アジアのデザイン思想で作られたものではないと推測する。緑色に苔むして、さらに異国風味が増している。昭和6年(1917)に、このデザインとは、遥かに前衛的ではなかっただろうか。

これと似て明らかに日本的でない狛犬はもう一体碧南市には存在する。西端八剣神社の狛犬である。あちらはバロック調の西洋的デザイン。どちらも「オーパーツ(その時代に存在し得ないもの)」とでもいうべき、碧南の謎である。

「味淋造り」

1 要旨

味淋は料理に欠かせない調味料で、原料はもち米、米麴および焼酎またはアルコールである。大浜、棚尾は味淋作りが盛んで、現在、棚尾には杉浦味淋「愛櫻」、小笠原味淋醸造「峯寶」、相生ユニビオ（本社は西尾市へ移転）「相生」の3社が製造している。最盛期の昭和初期には、この3社に加え斎藤倉吉「榮松」、小笠原勘四郎「御代乃露」、名倉半太郎「譽菊」、永井彦右衛門「雲上櫻」、杉浦正一「志貴櫻」小笠原吉治郎「稲牡丹」、古久根勇治郎「園生」などがあつた。

2 味淋の製造、調理効果

(1) 製造方法

碧南市志貴町2-96にあつた三河味淋協同組合が昭和51年10月に発行した「みりん読本」による。

もち米、米麴（うるち米）、焼酎またはアルコールを主原料とする味淋は、清酒と違って酵母によるアルコール発酵工程がない。即ち高濃度のアルコール溶液の中で米麴の持つ酵素群の作用により、もち米から糖、アミノ酸などが生成され、また米麴の代謝産物が抽出されたり、麴菌の自己消化により香味成分が産出される。このため麴の良否は味淋の品質を大きく左右する。さらに20～30℃、30～60日の糖化・熟成期間では、酵素反応や非酵素的反応などにより、上記の成分は複雑な風味物質となって味淋が醸造される。

味淋は酒税法により、原料や製造法、成分が定められている。

(2) 味淋の調理効果

- ア 上品な甘味を付ける。
- イ てり、つやを付ける。
- ウ 嫌な臭いを消す。
- エ 食品の風味をまとめる。
- オ 味の浸透をよくする。
- カ 煮崩れを防ぐ。

キ 食材の可溶成分の溶出を抑える。

(3) 味淋の一般成分

14%程度のアルコール、多種類のアミノ酸やペプチド、有機酸、香気成分、さらに他の酒類と比べ非常に多量の糖分を含んでいる。

3 製造場

(1) 前記「みりん読本」に掲載されている碧南市、西尾市における昭和51年の製造所は次のとおりである。

銘柄	製造所名	所在地	技術者名簿
九重	九重味淋(株)	浜寺町2丁目	青柳守夫、島谷地利和 山田隆宥
曙櫻	曙酒造(株)	築山町3丁目	榊原清一
玉の井	帝国味醂	塩浜町4丁目	高松嘉幸
美吉野、三河	角谷文治郎	西浜町6丁目	
峯寶	小笠原味淋醸造場	弥生町4丁目	小笠原八郎
愛櫻	杉浦味淋醸造場	弥生町4丁目	杉浦正彦
栄松	笹娘酒造(株)	棚尾本町2丁目	斎藤照彦
相生	相生味淋(株)	西尾市下町丸山	村松文司、上代克美 田中章博

(2) 味淋造りが最も盛んであった昭和初期における棚尾の製造所は次のとおりである。

昭和5年棚尾町商工会会員名簿などによる。

銘柄	氏名
御代の露	小笠原勘四郎
峯寶	小笠原峯松
譽菊	名倉半太郎
雲上櫻	永井彦右衛門
相生	古久根勇蔵
栄松	斎藤倉吉
愛櫻	杉浦定次郎
志貴櫻	杉浦 正一
稲牡丹	小笠原吉治郎
園生	古久根勇治郎

尚、古久根勇蔵から相生ユニビオ(株)への変遷は次のとおりである。

(みどり 2012 年 1 月号から抜粋)

明治 5 年碧南市で古久根勇蔵が相生味淋の製造を開始。

大正 7 年には同地で、親族の村松文司が本味淋「初生桜」の製造を開始。

昭和 1 6 年には三河合同焼酎(株)設立。

昭和 2 0 年愛知酒精工業(株)に改称。

昭和 2 9 年に古久根、昭和 31 年に村松が清酒製造業を開始。

昭和 3 4 年に合理化のため統合し、相生味淋(株)及び相生酒造(株)とした。

昭和 4 1 年本社を西尾市へ移転。

平成 1 4 年村松浩一郎が代表取締役就任。

平成 1 6 年相生味淋(株)、愛知酒精工業(株)、相生酒造(株)の三者が合併し相生ユニビオ(株)とした。従って弥生町の事業所は「相生ユニビオ(株)碧南事業所」である。

(3)大正天皇大嘗祭献上品

大正 4 年の大嘗祭献上に関する文書により、当時の性能などについて知ることができる。

献上願

一、味淋（名称 相生） 式瓶

右御大礼奉祝ノ為献上仕度候間御許可被成下度此段奉願候也

愛知県碧海郡棚尾村字西山 6 4 番地 味淋醸造業人 古久根勇蔵

大正 4 年 1 0 月 1 9 日

愛知県知事 法学博士松井茂殿

献上品説明書

一、味淋（名称 相生）

醸造地 愛知県碧海郡棚尾村字西山 64 番地

一ヵ年醸造額 6 万 5 千円

分析成分ノ大要 内務省東京衛生試験所ニ於テ施セル定量分析

亜爾箇保爾 16.360

越幾科斯分総量 35.690

殿分糖 29.675

糊精 4.250

無機塩類灰分 0.100

撒爾失爾酸	ナシ
販路重要地	東京 横浜 大阪 北海道方面
醸造上ノ要領	名古屋税務監督局技師高田増蔵氏指導ヲ受ケ誠意熱心ニ研究スルコト多年
奉獻請願理由	多年研究ノ結果漸ク良品ヲ製出スルニ至リシハー聖代ノ余沢ナルヲ思ヒ爰ニ今回御大典ヲ奉祝セン為メ該品ヲ献上シテ持ッテ此ノ千載一遇ノ盛事ヲ記念センノ微哀ニ外ナラサルモノナリ

相生味淋醸造人 古久根勇蔵

4 写真

名倉半太郎家に残っている味淋造りに使った釜と甕

